



平成30年度

北九州市 総合防災訓練

実施結果報告書



目次

第1	訓練背景及び趣旨	1
第2	紫川及び東谷川の洪水浸水想定区域図	2
第3	訓練事前説明会及び長行校区住民への啓発	4
第4	訓練概要	6
第5	訓練結果	9
	第1訓練 住民避難訓練	9
	第2訓練 救助救出訓練	10
	第3訓練 給食訓練（炊出し）	14
	第4訓練 体験型防災訓練	15
	第5訓練 避難所運営訓練	20
第6	訓練参加者へのアンケート集計結果	22
第7	訓練総括と今後の課題	33
第8	参考資料	35

第1 訓練背景及び趣旨

近年、雨の降り方が特に激しさを増し、局所的な集中豪雨などにより全国各地で大規模な洪水害が発生し、人的、物的に甚大な被害が発生している。

平成29年7月の九州北部豪雨では、7月5日から6日にかけて対馬海峡付近に停滞した梅雨前線に向かって暖かく非常に湿った空気が流れ込んで線状降水帯が形成・維持され、断続的に集中豪雨が発生し、福岡県朝倉市や大分県日田市等で24時間降水量の値が観測史上1位を更新する大雨となった。

また、平成30年には、北日本に停滞していた前線が7月5日には西日本まで南下してその後停滞し、前線や台風第7号の影響により、日本付近に暖かく非常に湿った空気が供給され続け、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となった。

九州北部、四国、中国、近畿、東海、北海道地方の多くの観測地点で24、48、72時間降水量の値が観測史上第1位となるなど、広い範囲における長時間の記録的な大雨となり、特別警報の運用開始以来最多となる1府10県に「大雨特別警報」が発表された。

この平成30年7月豪雨と命名された記録的な豪雨災害により、西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や土砂災害が発生し、死者が200人を超える甚大な災害となった。(※1)

平成30年7月豪雨では、北九州市においても人的・物的に大きな被害が発生している。

雨の降り方が局地化・集中化・激甚化している近年の状況を受けて平成27年5月に水防法が改正され、「計画規模降雨」を前提とした洪水浸水想定区域を、「想定最大規模降雨」を前提とした洪水浸水想定区域に見直して公表することが定められた。(※2)

北九州市域においては、平成28年5月に「遠賀川水系遠賀川」の洪水浸水想定区域図が国土交通省から公表されたことに続き、平成30年4月には、市内の紫川、東谷川及び板櫃川に対する「想定最大規模降雨」による洪水浸水想定区域図が福岡県から公表された。

紫川流域においては過去にもしばしば洪水害が発生しており、平成21年、22年と2年続けて自衛隊の災害派遣を要請している。

小倉南区長行小学校区は、紫川と東谷川の合流部を包含しており、「想定最大規模降雨」による洪水浸水想定区域図では、広範囲に浸水し、その浸水深は最大で3～5mと予想されている。

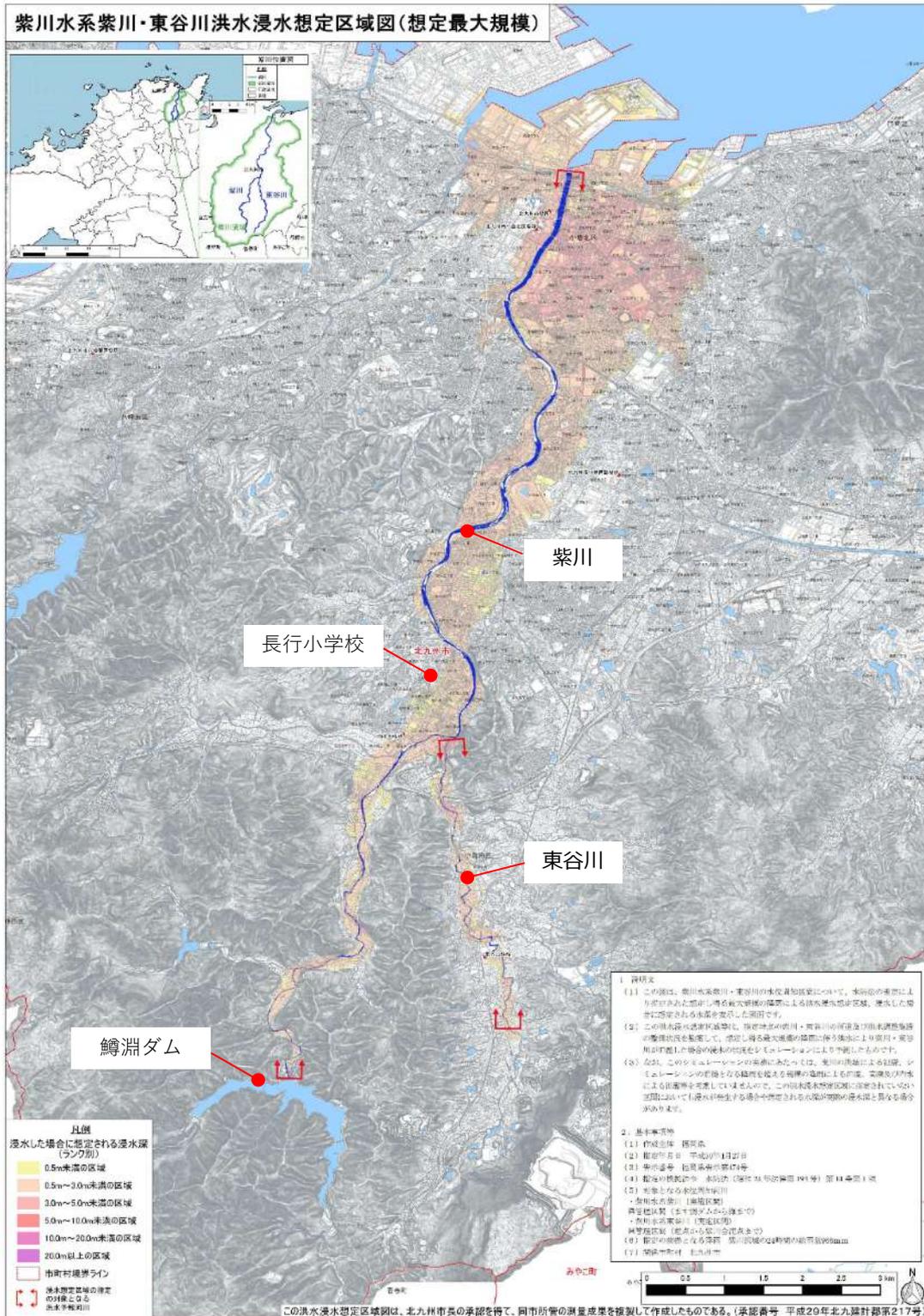
このような背景を踏まえ、平成30年度北九州市総合防災訓練は、平成21年、22年に浸水被害が発生した紫川流域において、長行校区内の住民を対象とした防災訓練を実施し、地域の自主防災力の向上を図るとともに、防災関係機関等の体制強化とあわせて、北九州市全体の防災力向上、更には防災啓発に繋げることを目的とするものである。

※1 被害状況は総務省消防庁及び気象庁ホームページから引用

※2 浸水想定区域説明は福岡県県土整備部作成資料から引用

第2 紫川及び東谷川の洪水浸水想定区域図

第2 紫川及び東谷川の洪水浸水想定区域図



第2 紫川及び東谷川の洪水浸水想定区域図

洪水浸水想定区域図は、河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域及び浸水深等を示したもので、水防法の規定に基づき公表されるものである。

平成27年5月の水防法改正を受け、福岡県においても「想定最大規模降雨」及び「計画規模降雨」を前提とした洪水浸水想定区域の公表が進められており、平成30年4月には、市内の紫川、東谷川及び板櫃川に対する「想定最大規模降雨」による洪水浸水想定区域図が福岡県から公表された。

「想定最大規模降雨」については、紫川流域で24時間総雨量が966ミリの場合（発生確率は約1,000千年に1回程度）を想定しており、このときの浸水区域を、浸水深により色分けして示している。

長行校区では、国道322号線の東側と紫川との間が0.5～5.0メートル浸水すると想定されており、特に紫川と東谷川の合流点付近では3.0～5.0メートルと最も大きな被害が想定されている。



長行校区の洪水浸水想定区域図（拡大）

第3 訓練事前説明会及び長行校区住民への啓発

第3 訓練事前説明会及び長行校区住民への啓発

1 事前説明会

平成30年度北九州市総合防災訓練を円滑かつ効率的に実施するため、訓練参加関係機関と長行校区住民を分けてそれぞれ複数回にわたって事前説明会を実施した。

2 長行校区住民への啓発

長行校区住民を対象とし、地域事前説明会の機会を活用して、今回の総合防災訓練の災害想定である河川はん濫についての防災講話や災害図上訓練（DIG）などの啓発を実施した。

また、長行校区、小倉南区及び北九州市社会福祉協議会共同主催の「平成30年度北九州市社会福祉ボランティア大学校 ふくしのまちづくり講座」における年4回の取組みの内、2回目に避難所運営に関する防災講話を実施するとともに、総合防災訓練の参加を3回目の活動として充て、連携を図った。

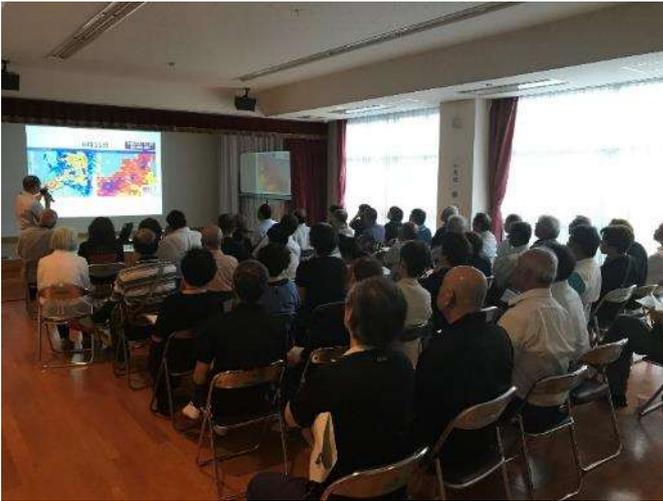
3 事業経過

- | | |
|--------------------------------|--|
| ●平成30年7月13日（金）
19:00～20:30 | 第1回 地域事前説明会
（長行市民センター）
（啓発）河川はん濫に関する防災講話 |
| ●平成30年8月28日（火）
14:00～15:30 | 第1回 関係機関事前説明会
（小倉南区生涯学習センター） |
| ●平成30年8月28日（火）
18:30～20:30 | 第2回 地域事前説明会
（長行市民センター）
（啓発）長行校区災害図上訓練（DIG） |
| ●平成30年10月19日（金）
14:00～15:30 | 第2回 関係機関事前説明会
（小倉南区役所） |
| ●平成30年10月19日（金）
19:00～20:30 | 第3回 地域事前説明会
（長行市民センター）
（啓発）避難所生活体験ブース運営調整
（社協講座2回目：防災講話）
大規模災害時の避難所運営について |
| ●平成30年11月4日（日） | 平成30年度北九州市総合防災訓練 実施
（社協講座3回目：訓練参加）
避難訓練を体験してみよう |

第3 訓練事前説明会及び長行校区住民への啓発

4 市民への周知

- 市政だより掲載
10月15日号（小倉南区版）
- 訓練ちらし配布
長行校区へ回覧 約150部（10月中旬）
長行小学校全生徒へ参観依頼文送付（訓練ちらし添付）（10月10日付）
小倉南区各市民センターへ配布（訓練ちらし10部・ポスター2部）
小倉南区各校区会長へ各校区での配布依頼（各10部）
- 北九州市ホームページ掲載（10月中旬）
- 防災情報北九州掲載（10月中旬）
- ツイッター掲載（10月中旬）



平成30年7月13日（金）
第1回地域事前説明会
『河川はん濫に関する防災講話』

平成30年8月28日（火）
第2回地域事前説明会
『災害図上訓練（DIG）』



第4 訓練概要

第4 訓練概要

1 訓練概要

平成29年7月の九州北部豪雨では、朝倉市、東峰村などに大きな被害が発生したが、今年7月には西日本を中心とした記録的な豪雨により、広島県や岡山県を中心に河川はん濫や土砂災害が発生し、北九州市においても人的・物的に大きな被害が発生した。

また今年4月には、市内の紫川及び板櫃川に対する想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図が福岡県から公表された。

そこで、平成30年度の北九州市総合防災訓練は、平成21年、22年に浸水被害が発生した紫川流域において、長行校区内の住民を対象とした防災訓練を実施した。

なお、今回の北九州市総合防災訓練は、平成30年度小倉南区防災訓練を兼ねて実施したものである。

2 訓練の目的

今回の訓練は、「見て・触って・体験して」をテーマとし、災害時に直面する様々な出来事を「体感・体験」しながら学習できる「市民体験型」の訓練を実施した。

この訓練により、地域住民が自分たちの住む地域の災害特性への理解を深め、長期に渡る避難所生活での諸問題への対応を「体感・体験」することにより、災害発生時における取るべき行動を確認しながら地域の自主防災力の向上を図ることができ、防災関係機関等の体制強化とあわせて、北九州市全体の防災力向上、更には防災啓発に繋げることが目的である。

3 訓練の主眼

- 新たな洪水浸水想定区域の周知と、避難方法・場所についての認知・実践
- 住民が主体的に避難行動を判断するための意識づくり
- 長期避難生活に備えた避難所運営についての知識・技術の習得
- 河川氾濫を想定した防災関係機関の連携強化

4 実施日時

平成30年 11月4日（日） 8時15分から13時00分まで

5 実施場所

北九州市立長行小学校（北九州市小倉南区長行東三丁目8-1）

6 災害想定

大雨による河川はん濫（前線停滞に伴う線状降水帯発生による大雨）

7 当日訓練参加・来場者数

20機関（北九州市含む） 738人

内訳		小計	合計
来賓		45	738
訓練参加機関		241	
市民	長行校区	270	
	一般参観	175	
その他		7	

8 取材報道機関（5社7名）

(1) テレビ局

○NHK（北九州放送局）

○TNC

(2) 新聞社

○西日本新聞社

○読売新聞

○毎日新聞

9 主な訓練内容・特色

●「見て・触って・体験して」様々な体験型のブース

本訓練におけるブースについては、来場者が見たり、触ったり、座ったり、寝たりと、災害時に直面する様々な出来事を実際に「体感・体験」できるものを多く取り入れ、防災をより身近に感じることを重視。

●市民が運営するブース形式

避難所生活体験ブースは、長行校区の住民と北九州市立大学の学生ボランティアなどの協同により、実際の避難所生活のように住民主体でブース運営を実施。

●ボランティアセンター体験

災害ボランティアセンターの運営の流れを体験しながら、被災者への支援力向上を図るとともに、被災者になった場合にどのようなことをボランティアが手伝ってくれるのかを学ぶことのできる体験ブースを設置。

●ペット飼育スペース

保健福祉局と動物愛護センターなどと協同し、災害時における放浪動物を出さない取り組みや、避難所での飼育の様子を展示。

災害時のペット対策に特化した内容は、本市初の取り組み。

●各関係機関が相互に連携した救助救出訓練

警察、消防、自衛隊、DMATなど、人命救助に対応する関係機関が相互に連携し、水没車両や、土砂に埋まった建物や車両から人命救助活動を実施。

第4 訓練概要

10 当日の訓練の流れ

時間	訓練項目等	備考
8:15	●第1訓練 住民避難訓練 長行校区住民避難開始	
9:20	●開会式（北九州市長 北橋 健治 挨拶）	
9:30	●第2訓練 救助救出訓練	
9:30	●第3訓練 給食訓練（炊出し） 炊出し（混ぜ込みご飯）調理開始	
10:10	●第4訓練 体験型防災訓練 1巡目	※ブース滞在時間 30分→20分に変更
10:35	2巡目	
11:00	3巡目	
11:25	4巡目	
11:50	5巡目	
10:10	●第5訓練 避難所運営訓練	
12:30	●閉会式（北九州市副市長 松元 照仁 講評）	
12:40	●炊出し試食・解散	
13:00	●全撤収開始	※終了時間を30分 繰り上げ

11 訓練参加機関（五十音順）

株式会社NTT西日本／小倉南区長行校区市民防災会（長行校区自治会）
／北九州市立長行小学校／公益社団法人 北九州市医師会／社会福祉法人
北九州市社会福祉協議会／公益社団法人 北九州市獣医師会／北九州市立
大学／国土交通省 九州地方整備局／九州電力株式会社／株式会社国際海
洋開発／北九州市小倉南消防団／小倉南区食生活改善推進員協議会／西部
ガス株式会社／三和シャッター工業株式会社／一般財団法人 日本気象協
会／一般社団法人 日本自動車連盟（JAF福岡支部）／福岡県警察小倉南
警察署／福岡県警察第2機動隊／陸上自衛隊第40普通科連隊／北九州市

第5 訓練結果

第1訓練 住民避難訓練（8：15～9：20）

(1) 訓練概要

この訓練は、長行校区住民を対象とし、校区住民が、事前に話し合った方法により長行小学校へ避難する訓練を実施するとともに、避難に支援が必要な方への避難支援訓練を実施するもの。

(2) 訓練想定

秋雨前線の影響で北九州市上空には線状降水帯が発生し、市内では記録的な大雨となっている。

紫川の水位が「避難判断水位」に到達したため、午前8時00分、紫川及び東谷川流域に「避難勧告」が発令された。

(3) 訓練内容

避難勧告の発令を受けて、長行校区市民防災会の伊崎会長から、緊急連絡網により校区住民へ避難勧告の発令を伝達。住民は各町内会で事前に取り決めた緊急避難場所などに集合した後、長行小学校へ避難した。

なお、災害時要配慮者の避難支援訓練では、車いすの要配慮者が支援者の介助により長行小学校へ避難した。

(4) 広報活動

避難勧告の発令を受け、小倉南区役所と小倉南消防団が広報車及び消防自動車で避難対象住民へ周知した。

(混乱を防ぐため、放送内容は避難勧告の発令ではなく、総合防災訓練実施の広報とした。)



第5 訓練結果

第2訓練 救助救出訓練（9：30～10：10）

（1）訓練概要

この訓練は、警察・消防・自衛隊やDMAT（災害派遣医療チーム）などが相互に連携して、河川はん濫により家や車に閉じ込められている要救助者を救出する様子を、アナウンスを交えて参観者へ展示するもの。

（2）災害想定

秋雨前線の影響で北九州市上空には線状降水帯が発生し、市内では記録的な大雨となっている。

午前9時20分、川の上流部でははん濫が発生し、土砂を含んだ濁流が家屋を飲み込んでいたとの情報が入った。

さらに、午前9時25分、土石流が発生、近隣の多くの家屋を飲み込んだ模様。

通報では、家の中に人が埋まっているというものや、車が土砂に埋まっているという通報、更には、走っていた車が流されて水のなかで転覆しているという通報もある。

直ちに北九州市長は県知事に対し、陸上自衛隊に対する「災害派遣」を要請するとともに、消防局消防隊、消防団及び福岡県警察第2機動隊が現場へ出動し、災害の状況からDMAT（災害派遣医療チーム）の出動も要請された。

（3）各機関の活動内容

各機関の指揮者が合同指揮所へ集結し、現場の情報収集のため陸上自衛隊の情報小隊（オフロードバイク部隊）の出動を要請。



陸上自衛隊本部管理中隊の情報小隊が災害現場を巡回し、要救助者の人数、状況を合同指揮所へ報告。



<p>陸上自衛隊第40普通科連隊重迫撃砲中隊と小倉南消防署特別救助隊が、土砂に埋没した家屋「現場A」の内部に取り残された要救助者の救出に着手。</p>	
<p>福岡県警察第2機動隊が、土砂に埋没した車両「現場B」からの要救助者の救出に着手。</p>	
<p>消防局東部方面特別高度救助隊が、転覆して水につかった車両「現場C」からの要救助者の救出に着手。</p>	
<p>小倉南消防団が、現場付近に応急救護所を設置。</p>	

第5 訓練結果

<p>北九州DMAT 2 隊は「現場A」と「現場B」の要救助者の観察と応急処置に当たる。</p>	 A photograph showing several rescue workers in bright orange and yellow uniforms standing on a paved area. One worker is kneeling next to a red medical bag. In the background, there are trees and a building.
<p>「現場C」から要救助者が救出され、小倉南消防署三谷救急隊により応急救護所へ搬送。</p>	 A photograph showing rescue workers in orange and blue uniforms attending to a patient on a stretcher. The patient is lying on a blue tarp. A white van is visible in the background.
<p>「現場B」から機動隊により全脊柱固定された要救助者が救出され、戸畑共立病院のDMATにより観察・処置を受けたのち、消防団により応急救護所へ搬送。</p>	 A photograph showing rescue workers in blue and yellow uniforms attending to a patient on a stretcher. The patient is lying on a blue tarp. A white van is visible in the background.
<p>現場の状況確認のため、依頼を受けた協定企業の(株)国際海洋開発のドローンが上空から活動状況を撮影。</p>	 A photograph showing a drone flying in the sky above a training site. The site is a paved area with trees and buildings in the background.

<p>陸上自衛隊により「現場A」の屋根から要救助者が救出され、市立八幡病院のDMATの観察を受け、消防団により応急救護所へ搬送。</p>	 <p>A photograph showing a rescue operation on a blue tarp. Several people in orange and black uniforms are kneeling around a person lying on the tarp. A stretcher with a patient is visible to the right. A crowd of spectators is gathered in the background under a white tent.</p>
<p>「現場A」の壁面から進入した小倉南救助隊は、要救助者の状況からクラッシュ症候群の恐れがあると判断して、三谷救急隊の救急救命士とDMATが内部に進入させて、輸液等の応急処置を実施後、屋外へ救出。</p>	 <p>A photograph showing a rescue operation inside a building. Several people in orange and yellow uniforms are working around a person lying on a stretcher. The scene is outdoors, with a large building in the background.</p>
<p>三谷救急隊とDMATが協力して救急処置を実施しながら救急車内へ収容後、搬送開始。</p>	 <p>A photograph showing a rescue operation near an ambulance. Several people in orange and yellow uniforms are working around a person lying on a stretcher. The scene is outdoors, with a white ambulance in the foreground.</p>
<p>訓練終了後、郡山一明北九州市危機管理参与が救助救出訓練の講評を行った。</p>	 <p>A photograph showing a group of people in orange and yellow uniforms standing in a line. They appear to be participating in a training exercise or a briefing. The scene is outdoors, with a building in the background.</p>

第5 訓練結果

第3訓練 給食訓練（炊出し）（9：30～13：00）

（1）訓練概要

この訓練は、小倉南区食生活改善推進員協議会と陸上自衛隊の連携のもと、北九州市の備蓄食料であるアルファ化米を調理して、混ぜ込みご飯を作成し、同じく備蓄食料であるけんちん汁や豚汁と合わせて来場者へ提供することで、備蓄食料についての啓発を行うもの。

（2）使用備蓄食料

○アルファ化白米	1箱50人分	10箱
○けんちん汁	1缶20人分	10缶
○豚汁	1缶20人分	10缶
○飲料水500ml（24本入り）		26箱（来場者に配布）



第4訓練 体験型防災訓練（10：10～12：10）

(1) 訓練概要

この訓練は、大きく5つに分かれたブースを回りながら、避難所での居住スペースを体験したり、車が水中に落ちた時の脱出法、災害ボランティアへ行ったときにどのような手続きや仕事があるのかなど、災害時に直面する様々な出来事を、実際に見て・触って・体験しながら学習していく「市民体験型」の訓練。

(2) 訓練内容

A 避難所生活体験ブース（体育館北側）

実際の避難所での生活を体験できるブース。

●仮設トイレコーナー

（運営：長行校区住民・北九大・環境局）

仮設のトイレに入ったり座ったりできるコーナー



●避難所居住スペース体験コーナー

（運営：長行校区住民・北九大・三和シャッター工業(株)）

ダンボールベッドや避難所用パーティションなど、避難所での個人の生活スペースを体験できるコーナー



第5 訓練結果

●パネル展示・啓発映画上映

体育館間仕切りパネルに、紫川・東谷川の洪水浸水想定区域図や、仮設トイレなどの啓発物を展示

体育館ステージ壁面をスクリーンとした昭和28年北九州大水害の映像や、平成29年7月九州北部豪雨の記録映像を上映



B 防災体験ブース（体育館南側）

●水没車両からの脱出方法

（運営：JAF福岡支部）

VR（バーチャルリアリティ）を用いた水没車両からの脱出法など



●災害時に役立つ 新聞紙で作る防災グッズ

（運営：北九州市立大学）

北九州市立大学の学生による災害時に役立つ簡易的な物品の製作など



C 土砂災害3Dシアター（教室）

（運営：危機管理室・小倉南区役所）

土石流や、がけ崩れなどの土砂災害への対応を3D（立体映像）で学べるブース。



D ボランティアセンター体験ブース（中庭）

（運営：北九州市社会福祉協議会）

災害ボランティアセンターの「受付」や「マッチング」などの運営の流れを体験できるブース。



E 防災啓発ブース（グラウンド東側）

災害対応やライフラインの復旧などに携わる各防災関係機関による、啓発ブース。

● 応急給水活動体験

（運営：上下水道局）

断水時における給水車での給水活動の体験



第5 訓練結果

●大規模災害時におけるドローン活動事例紹介

(運営：九州地方整備局)

様々な災害で情報収集に活躍したドローンの実機とその映像の紹介



●災害伝言ダイヤル「171」体験

(運営：株NTT西日本)

災害時の安否確認手段である「災害伝言ダイヤル『171』」の体験



●電柱等の災害復旧コーナー

(運営：九州電力株)

災害で破損した電線などの復旧方法の紹介



●採水ポンプ・管内カメラ操作体験

(運営：西部ガス株)

ガス管内を検査できる管内カメラの操作体験など



●トクする！防災 ローリングストックによる備蓄のススメ

(運営：日本気象協会・三和シャッター工業株)

備蓄物資の展示及び防災グッズの抽選会など



●ペット飼育スペース

(運営：北九州市獣医師会・動物愛護センター・保健福祉局)

避難所でのペット飼育に関する物品や飼育方法の紹介



第5 訓練結果

第5訓練 避難所運営訓練（10：10～11：30）

（1）訓練概要

市職員（区対策部）、地域住民（長行校区市民防災会）及び施設管理者（長行小学校）とで構成する避難所運営委員会を模擬設置し、実働型での「避難所運営ゲーム（HUG）」などを実施することにより、避難所における様々な問題を模擬体験する訓練。

（2）訓練参加者

- 長行校区市民防災会 14名
- 長行小学校 2名
- 小倉南区役所 4名

（3）訓練内容

体育館「避難所運営委員会」テーブルへ集合し、実働型のHUGを展開

●課題1

体育館に避難者が避難してきたため、体育館のレイアウトを決める

○対応（机上）

- ・避難所運営委員会の場所
- ・受付の位置
- ・避難所の通路の位置
- ・要配慮者への対応（別室の手配など）
- ・情報の掲示場所

などを話し合いながら、体育館に見立てた模造紙上へ記入



●課題2

避難した住民からテレビが見たいとの要望があった

○対応（実働）

避難所運営パッケージ内にあるテレビアンテナを体育館に設置し、実際のテレビと接続して、視聴できるようにした

●課題3

避難した住民から、電話をかけたいが携帯電話の充電が切れたので、何とかならないかとの要望があった

○対応（実働）

職員室前にある公衆電話回線を使用し、特設公衆電話を設定

●課題4

ペットを連れてきたがどこで飼育したらよいか問い合わせがあった

○対応（実働）

防災啓発ブース（グラウンド東側）に設置された「ペット飼育スペース」を視察し、現地で説明を受けた



●課題5

学校の備蓄食料・飲料水の備蓄場所、種類、数量を確認する

○対応（実働）

施設管理者（長行小学校教頭）が体育館2階の備蓄物資保管場所を案内し、備蓄物資の種類や数量などを確認した

第6 訓練参加者へのアンケート集計結果

第6 訓練参加者へのアンケート集計結果

アンケート調査の概要

今回の総合防災訓練における参観者の意見や、災害時における避難に関する考え方などについてアンケート調査を実施し、今後の総合防災訓練のあり方や、災害対策の検討の基礎資料とするもの。

アンケート内容は以下のとおり。

【ご自身のことについて】 あてはまる□にレを記入してください

Q1	性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
Q2	年齢	<input type="checkbox"/> 10代以下 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代以上
Q3	お住いの地域	<input type="checkbox"/> 小倉南区 <input type="checkbox"/> 門司区 <input type="checkbox"/> 小倉北区 <input type="checkbox"/> 若松区 <input type="checkbox"/> 八幡東区 <input type="checkbox"/> 八幡西区 <input type="checkbox"/> 戸畑区 <input type="checkbox"/> 市外
Q4	会場までの交通機関 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> マイカー <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> モノレール <input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> 自転車 <input type="checkbox"/> バイク <input type="checkbox"/> 電車 <input type="checkbox"/> シャトルバス(一般駐車場から) <input type="checkbox"/> その他()

【本日の防災訓練について】 あてはまる□にレを記入してください

Q5	どこで(何で)知りましたか	<input type="checkbox"/> 町内会・自治区会の回覧 <input type="checkbox"/> 市政だより <input type="checkbox"/> 新聞・テレビ <input type="checkbox"/> 防災情報北九州 <input type="checkbox"/> 市のホームページ <input type="checkbox"/> その他()
Q6	訓練参加のきっかけ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 町内会・自治区会からの呼びかけ <input type="checkbox"/> 行政の取り組みや災害時の動きに関心があった <input type="checkbox"/> 河川氾濫などの防災対策に関心があった <input type="checkbox"/> 消防・警察・自衛隊などに関心があった <input type="checkbox"/> その他()
Q7	訓練時間	<input type="checkbox"/> 長すぎる <input type="checkbox"/> やや長い <input type="checkbox"/> 丁度よい <input type="checkbox"/> やや短い <input type="checkbox"/> 短すぎる
Q8	どの内容がよかったか (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 住民避難訓練(長行校区住民のみ参加) <input type="checkbox"/> 救助救出訓練(警察・消防・自衛隊などの救助訓練展示) <input type="checkbox"/> 避難所生活体験ブース(ダンボールベッドや仮設トイレなど) <input type="checkbox"/> 防災体験ブース(JAF水没脱出や北九大) <input type="checkbox"/> 防災啓発ブース(給水車や各防災関係機関の展示ブース) <input type="checkbox"/> ボランティアセンター体験ブース(中庭のボランティアセンター訓練) <input type="checkbox"/> ペット飼育スペース(避難所でのペット飼育について) <input type="checkbox"/> 土砂災害3Dシアター(土砂災害についての立体映像) <input type="checkbox"/> その他()
Q9	今回の訓練全般について	<input type="checkbox"/> 大変満足 <input type="checkbox"/> まあ満足 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> やや不満 <input type="checkbox"/> 非常に不満

第6 訓練参加者へのアンケート集計結果

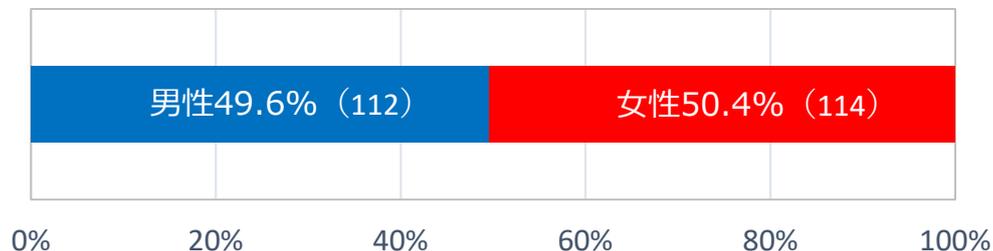
【災害対策について】 あてはまる□にレを記入してください

Q10	どの避難情報が出たら、自宅以外へ避難しようと考えていますか	<input type="checkbox"/> 避難準備・高齢者等避難開始 <input type="checkbox"/> 避難勧告 <input type="checkbox"/> 避難指示（緊急） <input type="checkbox"/> 避難情報の意味がよくわからない <input type="checkbox"/> その他の情報（ ） <input type="checkbox"/> 避難は考えてない（Q12もお答えください）
Q11	自治体から避難情報が発令された場合に、自宅以外の場所へ避難したことがありますか	<input type="checkbox"/> 避難所へ避難したことがある <input type="checkbox"/> 親戚・友人宅等へ避難したことがある <input type="checkbox"/> その他の場所（ ） <input type="checkbox"/> 避難したことはない（Q12もお答えください）
Q12	Q10で「避難は考えてない」または、Q11で「避難したことはない」とお答えになった方へお聞きします。 その理由について、次の中から選んでください（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 災害の危険性を感じたことがないから <input type="checkbox"/> どこに避難したら良いのか分からないから <input type="checkbox"/> 交通手段がないから <input type="checkbox"/> 避難場所までの距離が遠いから <input type="checkbox"/> 避難する必要があるから （マンションの上階に住んでいるなど） <input type="checkbox"/> 避難の対象世帯に入ってなかったから <input type="checkbox"/> 避難情報の意味がわからないから <input type="checkbox"/> その他（ ）
Q13	本日の訓練に参加して役立ったと思うことは何ですか（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 河川はん濫に対する防災意識が高まった <input type="checkbox"/> 避難所での生活イメージがつかめた <input type="checkbox"/> 自宅が浸水想定区域にあることを知った <input type="checkbox"/> 地域住民のつながりが深まった <input type="checkbox"/> 早めの避難の大切さが理解できた <input type="checkbox"/> 災害ボランティアについて知ることができた <input type="checkbox"/> その他（ ）
Q14	その他、本日の訓練や防災全般に関して自由にお書きください	

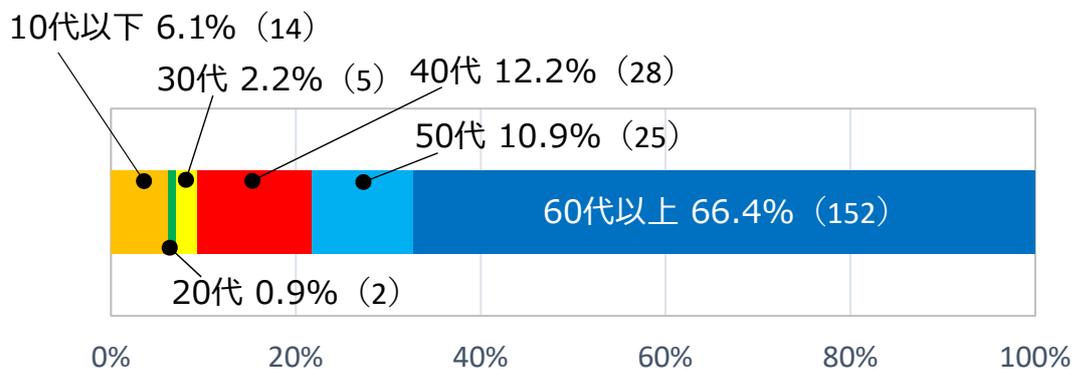
調査名称 平成30年度北九州市総合防災訓練等に関するアンケート調査
 調査対象 訓練参加者を含む来場者（一般市民）445人を対象
 調査場所 北九州市立長行小学校（訓練会場）
 実施期間 平成30年11月4日（日）9時20分から13時00分まで
 調査方法 来場の際、受付にて各種資料とともに配布。
 訓練終了後に炊出し配布場所に設置したアンケート回収箱にて回収。
 回収数 229
 有効回収率 51.5%

第6 訓練参加者へのアンケート集計結果

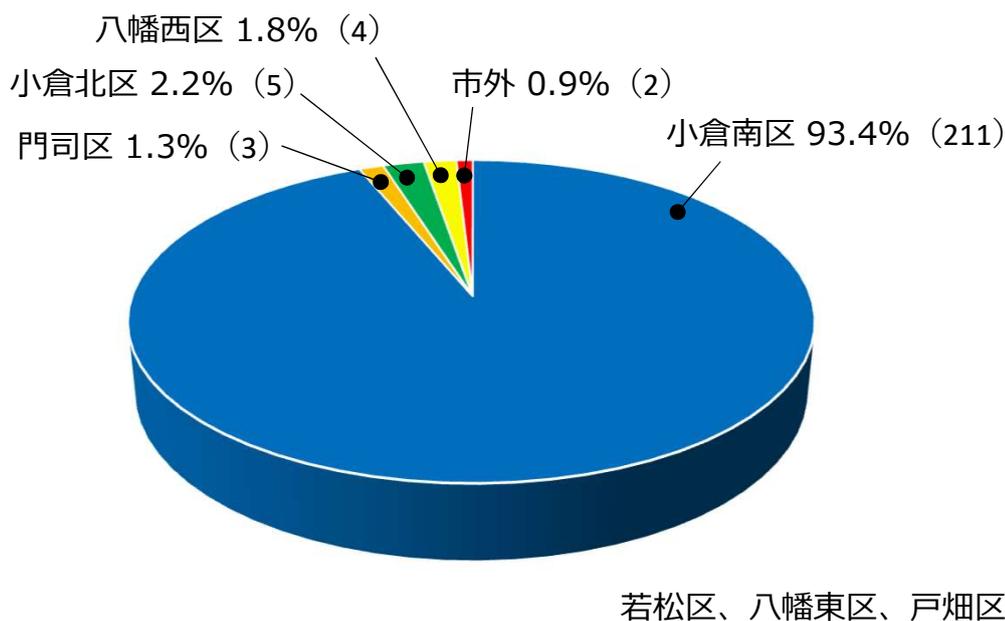
Q1 訓練参加者の性別 (n=226,単一回答)



Q2 訓練参加者の年齢 (n=226,単一回答)

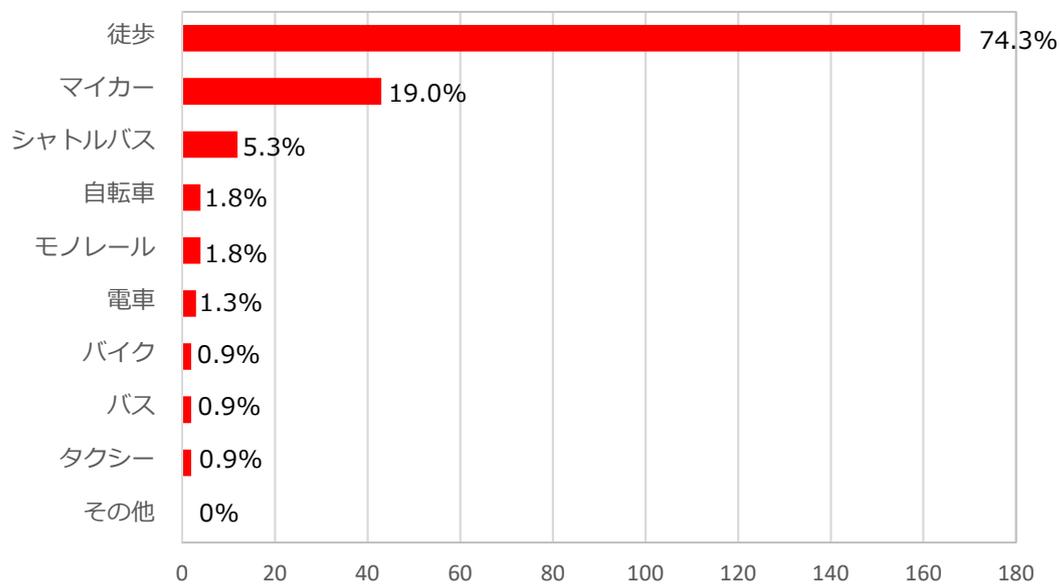


Q3 訓練参加者の居住地 (n=225,単一回答)

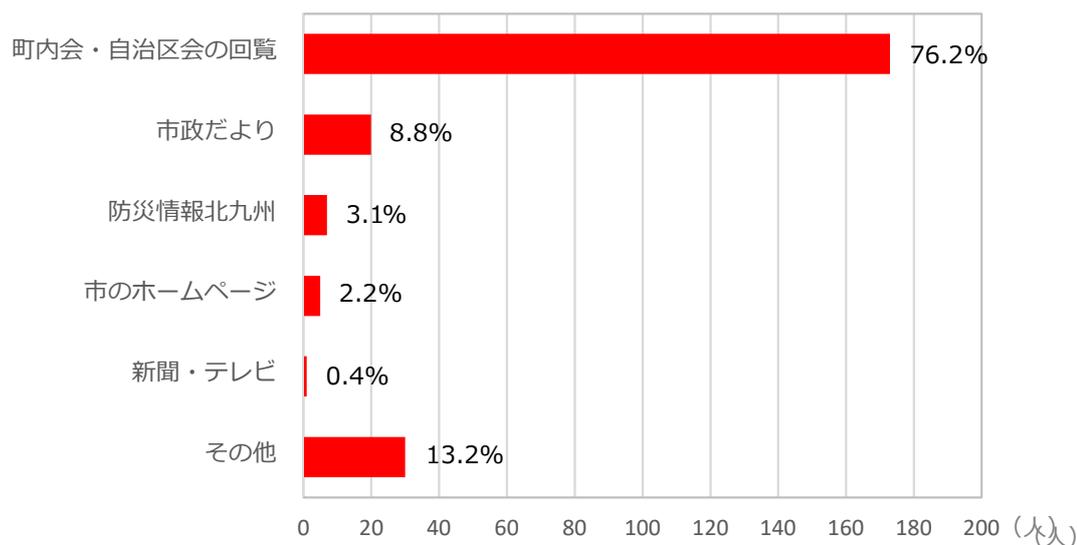


第6 訓練参加者へのアンケート集計結果

Q4 会場までの交通手段 (n=226,複数回答)



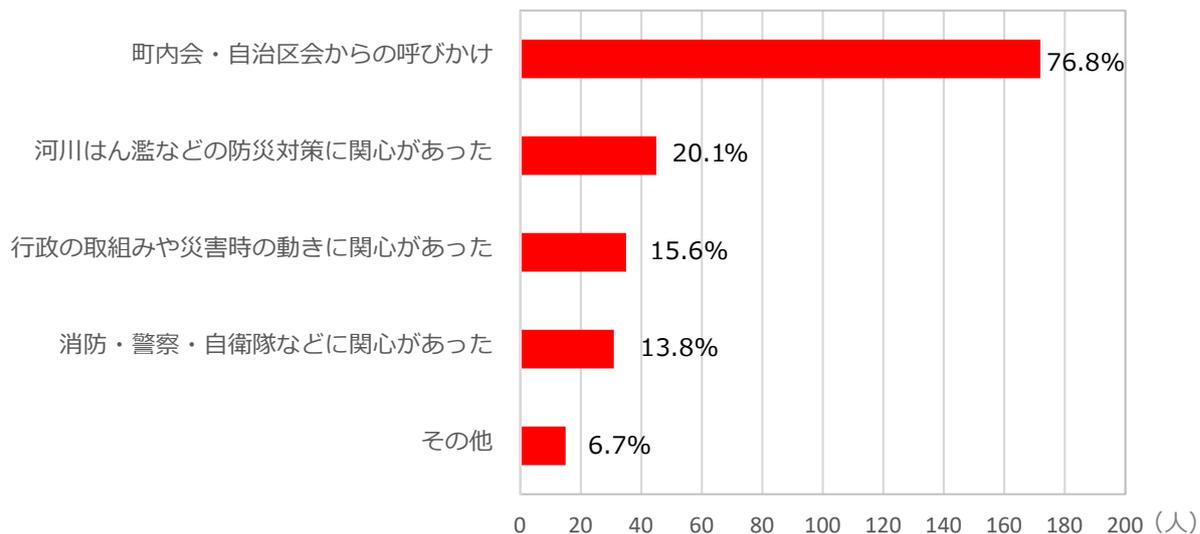
Q5 訓練を知った媒体 (n=227,複数回答)



「その他」の主な内訳： 小学校からの案内（11）、市民センターなどの集会等（3）

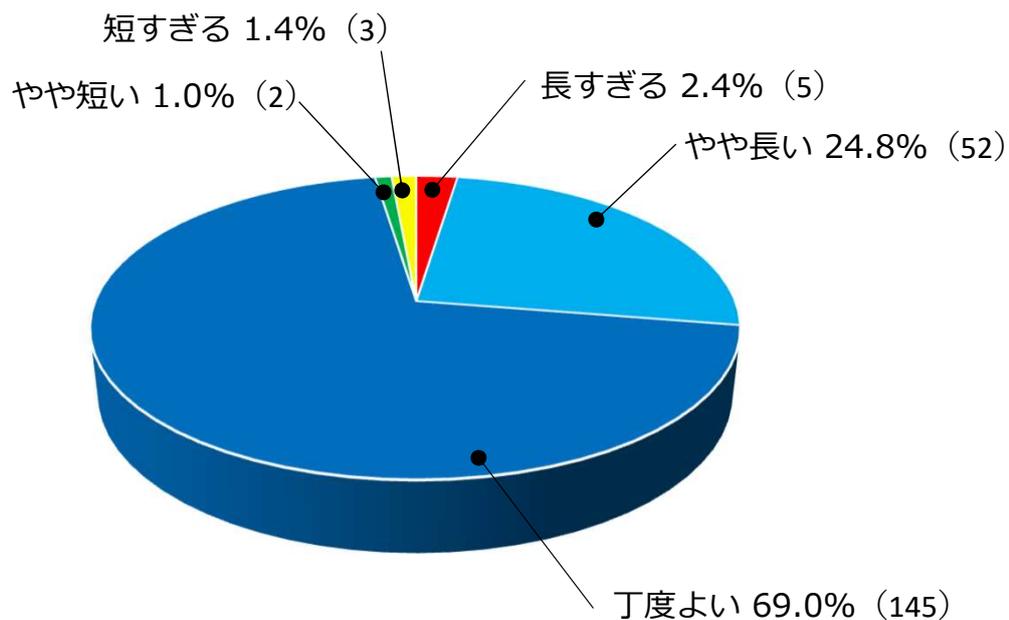
第6 訓練参加者へのアンケート集計結果

Q6 訓練参加のきっかけ (n=224,複数回答)



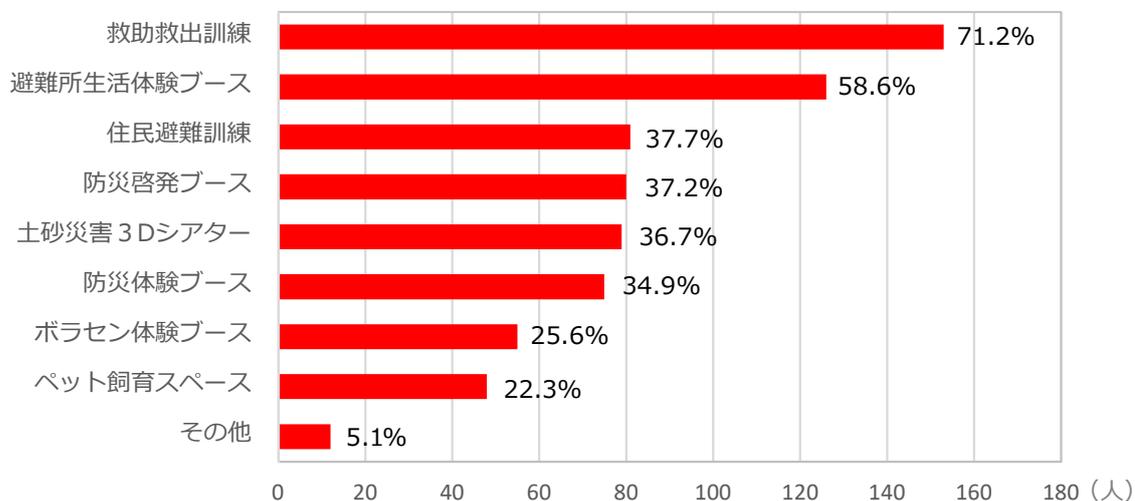
「その他」の主な内訳：大雨が降ったから (3)、もしものときのため (2)、小学校からの案内 (1)、市民センターなどの集会・講演等 (1)

Q7 訓練時間 (n=210,単一回答)



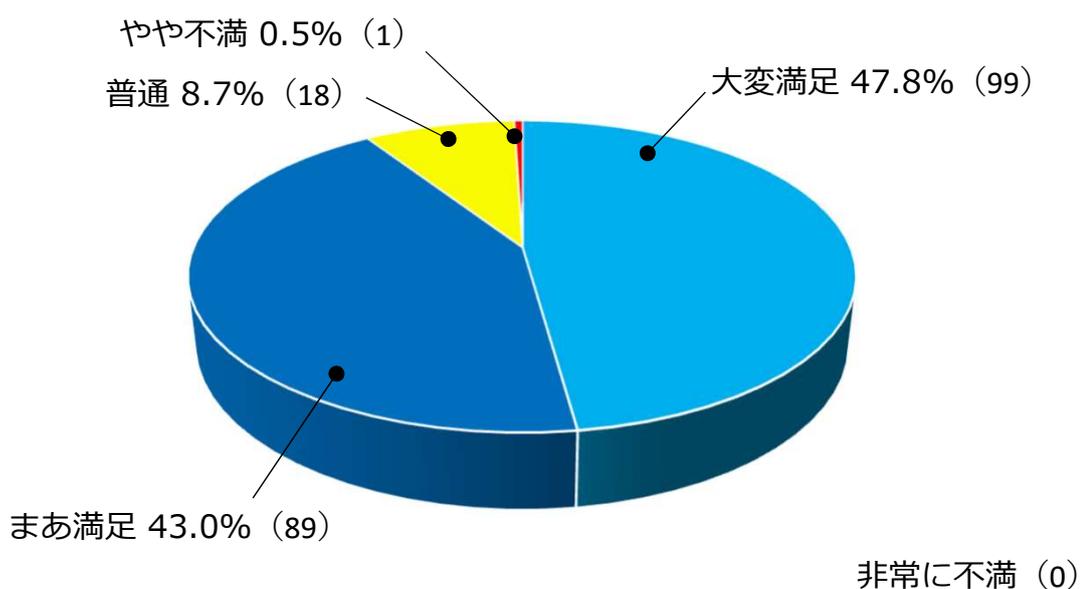
第6 訓練参加者へのアンケート集計結果

Q8 どの訓練内容がよかったか (n=215,複数回答)



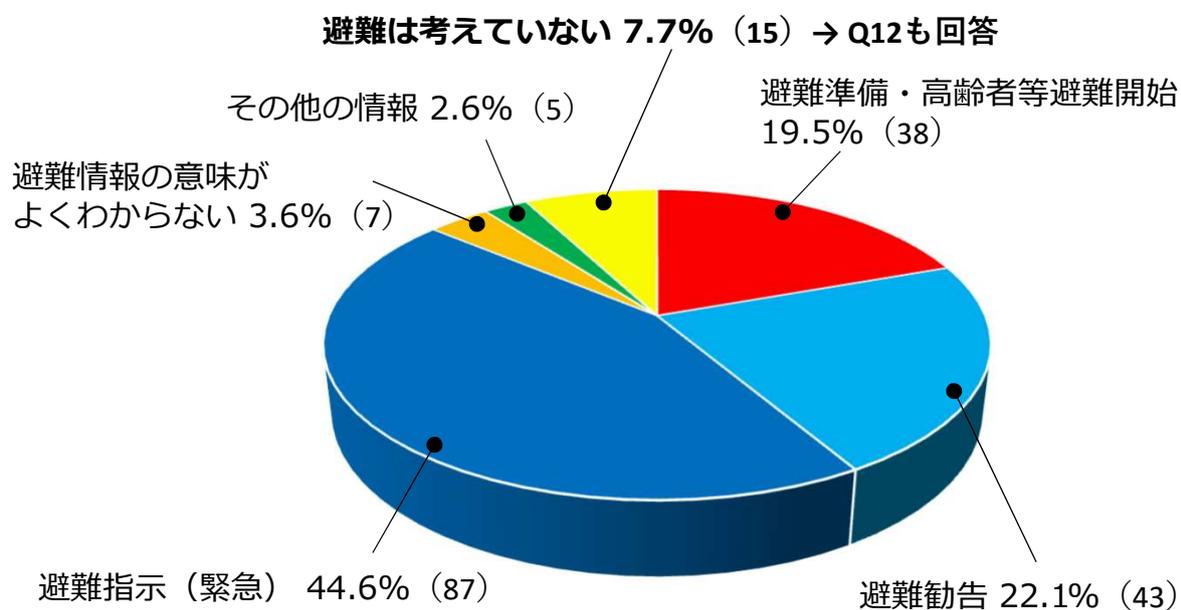
「その他」の主な内訳：ドローンの活躍 (2)

Q9 訓練全般の満足度 (n=207,単一回答)



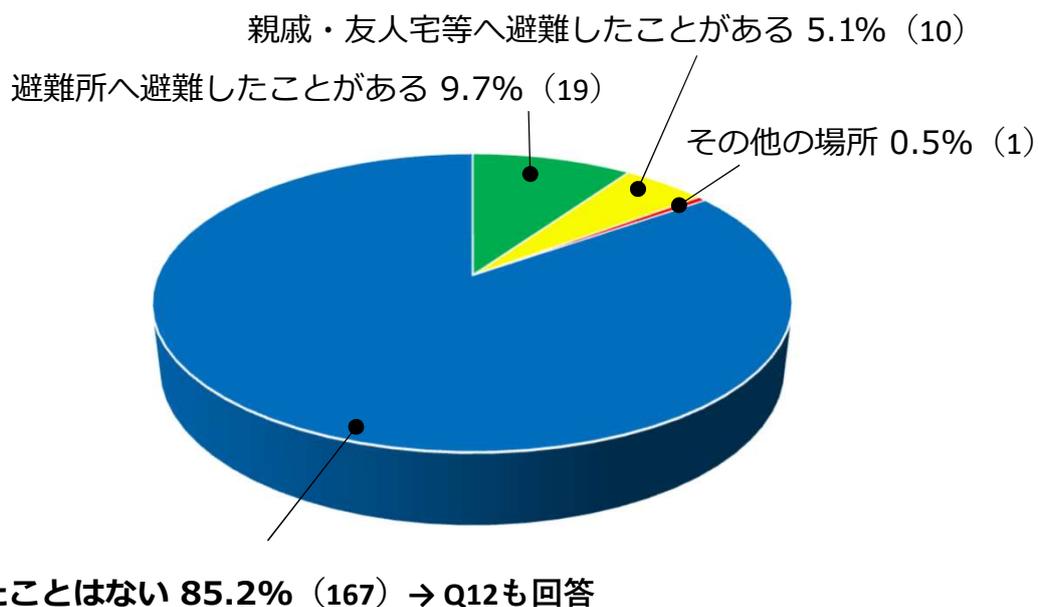
第6 訓練参加者へのアンケート集計結果

Q10 どの避難情報が出たら自宅以外の場所へ避難するか (n=195, 単一回答)



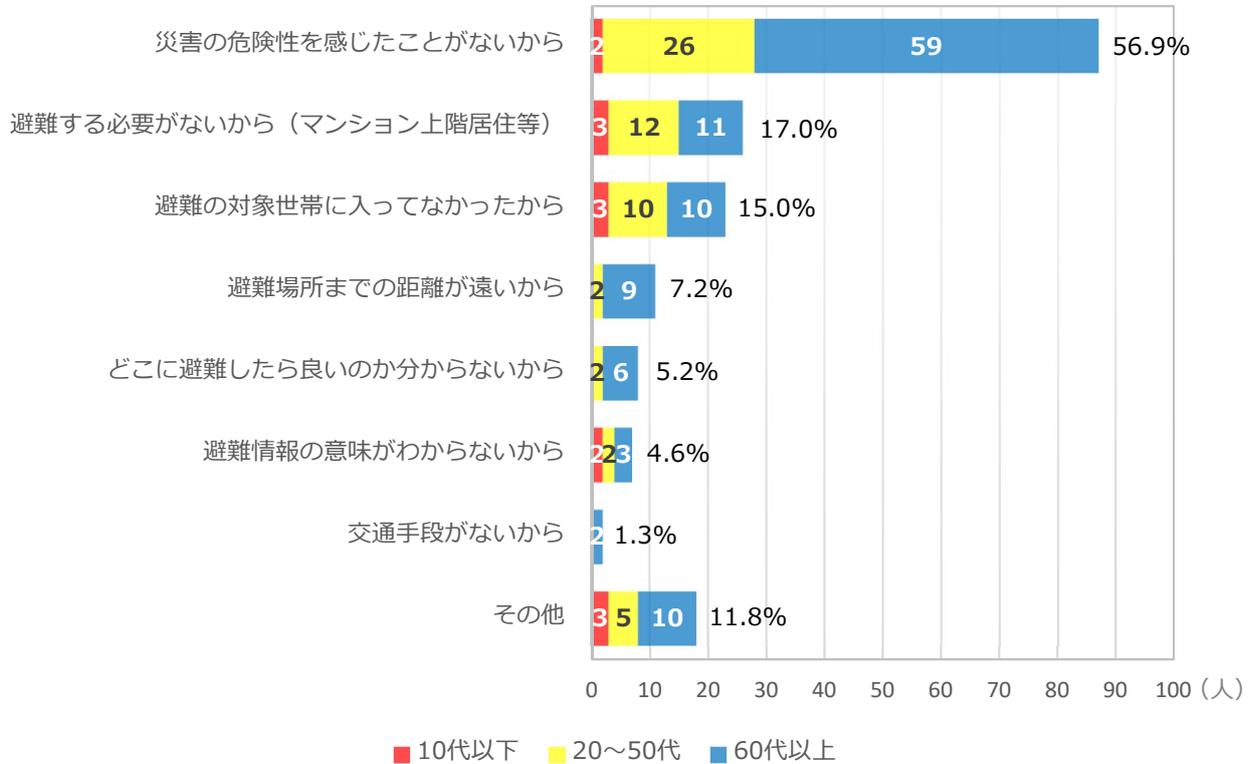
「その他の情報」の主な内訳：家の周りの様子など (2)

Q11 避難情報発令時、自宅以外へ避難したことがあるか (n=196, 単一回答)



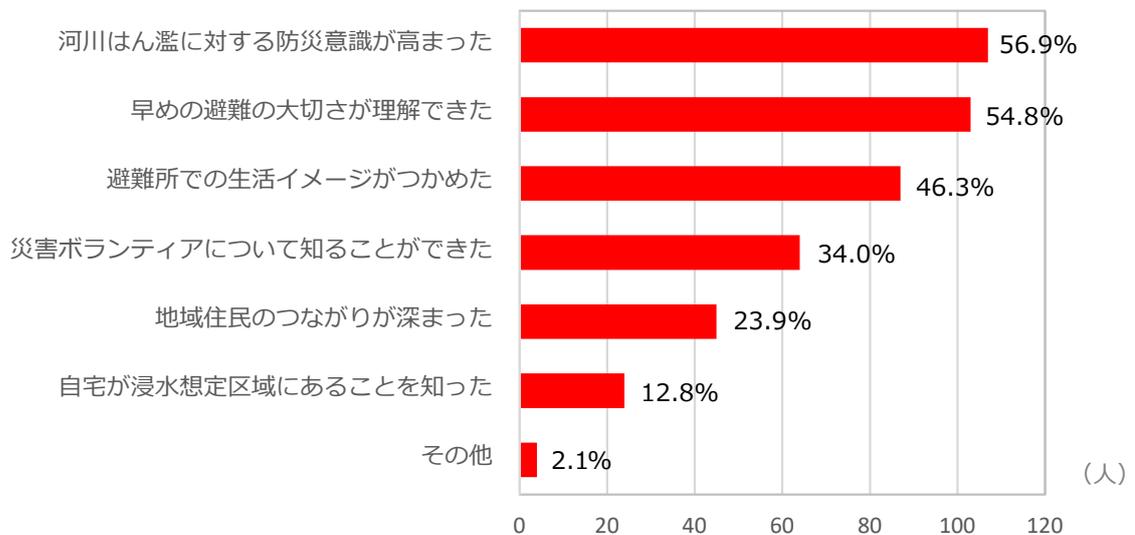
第6 訓練参加者へのアンケート集計結果

Q12-1 避難をしたことがない、しない理由 (n=153,複数回答)



「その他」の主な内訳 ・大した被害がなく、避難する状況にない (6)
 ・自宅のほうが安全と思うから (3)

Q13 本日の訓練に参加して役立ったと思うことは何か (n=188,複数回答)



「その他」の主な内訳 ・備蓄の大切さを再確認できた。
 ・避難意識が付いた。

Q14 その他、本日の訓練や防災全般に関する意見

●本日の訓練（肯定・評価）

【訓練全般の評価】

- ・すごいイベントありがとうございました。炊き込みご飯が大変おいしかった。
- ・素晴らしい訓練だった。
- ・とても有意義な一日だった。
- ・長行校区民として心強く感じた。
- ・展示箇所が多く、大変新しい防災に関する情報を得ることができた。
- ・最高だった。
- ・計画・準備等ありがとうございました。
- ・3Dシアターの説明が分かりやすかった。
- ・全部よかった。
- ・参加してよかった。良い経験ができた。
- ・体験コーナーが充実していたので、身近に災害を感じる事ができた。
- ・子育て世帯や体力のない人が参加しやすい工夫があると思った。
(子連れで参加しましたが、温かく対応していただき感謝。)
- ・身近な小学校での訓練は大変良かった。
- ・ありがとうございました。役立てたいと思う。
- ・いろいろ体験出来て役に立った。
- ・今日は参加して本当に良かったと思う。どのブースも体験出来てよかった。
- ・大変勉強になった。

【防災意識向上】

- ・総合防災訓練に参加して、災害の恐ろしさ、防災に対する心得を知ることができてとても役立った。
- ・今日の参加で防災の体験ができて大変勉強になりました。味御飯もおいしかった。
- ・防災意識が高まった。実感できた。
- ・貴重な体験をすることができた。
- ・何事も備えあつてのことであると理解でき、防災意識向上に役立ちました。
- ・今まで災害にはあまり縁がないと思っていたけど、これからはもっと関心を持っていきたいと思う。
- ・大掛かりで驚いた。意識が高まった。
- ・日ごろからの防災意識の大切さがよく分かった。
- ・避難するような災害が発生しないことを願うばかりですが、いつどこで遭うか分からないと意識を高めておくことの大切さを学べた。
- ・防災意識をもって日々を過ごす重要性が理解できた。

第6 訓練参加者へのアンケート集計結果

【地域のつながりの重要性】

- ・ 町内の方と動き、皆さんと動くことの心強さを感じた。
- ・ 自分の命が第一ですが、地域の方を知って助け合わなければと思った。
- ・ ボランティアセンターの説明があり、次にボランティアに参加したいと感じた。
- ・ 情報とグッズ、実際に起きた時にどの様に行動するか確認し合うことの大切さを感じた。

【防災関係機関への評価】

- ・ 自衛隊員の方々の災害救助活動には、いつも頭の下がる思いをしている。
- ・ 災害時に救助に当たる多くの方々の活動が理解できよかったと思う。
- ・ 救助救出訓練を見て恐怖を感じた。自分が被災した時に冷静に避難できるのか不安。でも、災害が起きても様々な職種の方たちが助けてくれることを知れてよかった。
- ・ 現地での自衛隊・消防・警察の調整会議訓練は大事だと思います。これからもさらに進化を続けてほしい。
- ・ 救助訓練の見学ができ非常に良かった。
- ・ 人を助けている姿を見れてよかった。

【備蓄の重要性】

- ・ もう一度家庭で防災物品の確認・準備をしようと思う。
- ・ 持ち出し袋の必要性に気づけた。
- ・ 備蓄の大切さを再確認した。

【避難所生活の理解】

- ・ 避難所の様子が見れて、感じられたのがよかった。
- ・ ダンボールが強いので避難するときがいいなと思った。
- ・ 初めてトイレやベッドなど避難場所での生活イメージを持つことができ、新聞紙のスリッパ・皿などを作ることができてよかった。
- ・ ペットの飼育についてたくさん知ることができた。
- ・ ダンボールで仮設ベッドができるのがよいと思った。
- ・ 避難所に避難する気持ちになれた。

第6 訓練参加者へのアンケート集計結果

●本日の訓練（課題・提言）

- ・自由席の椅子が足りず、立ったままの参観だったので非常に疲れた。
- ・たまたま市のHPで見つけて訓練の詳細を知ったが、連合会に所属していない市民への情報提供に配慮してほしい。
- ・救助救出訓練は別の機会で行えばよいと思う。
- ・イメージしていた住民の避難の行動が少なかったと感じました。
- ・1回ではなく何回かすることが大切であると思う。
- ・場所的に広さが欲しかった。
- ・水没した車両からの救出で、ブルーシートだったのでよくわからなかった。透明なシートだったらよかったのと思った。
- ・初参加者用の事前説明を行って欲しい。

●防災全般（課題・提言）

- ・避難場所に通じる道路状況の悪さがある。（要整備）
- ・高德橋の幅を広げてほしい。
- ・避難地区を細かく出してほしい。
- ・緊急メールでは市のホームページを確認してくださいとなっているが、ホームページが見づらい。自宅に避難情報が出ているが分かりにくい。
- ・避難完了報告にあたって、具体的に何町内何名との報告が欲しい。
- ・障害者に対する避難が大切。一人も残さないという地域住民の意識が大切で、階段ではなくスロープを作り、どこからでも避難所に行ける施設を作るべき。

第7 訓練総括と今後の課題

平成30年度北九州市総合防災訓練の成果検証や今後の災害対策の参考資料とするため、一般市民の来場者を対象にアンケート調査を実施した。
(結果詳細については「第6 訓練参加者へのアンケート集計結果」を参照)

長行校区の中には、土砂災害警戒区域に指定された斜面と紫川に挟まれた地域がある。紫川のはん濫により橋や道路が寸断されれば、立ち退き避難が困難になり、斜面の土砂崩れの兆候に気が付いたとしても、避難できずに命を危険さらすことになる。

河川はん濫については、突然発生する土砂災害と異なり、河川の水位を意識して早めに立ち退き避難を行うことが可能であることから、訓練ちらしやリーフレットの表に早めの避難の重要性を掲載するとともに、地域説明会での講演の中でその重要性を説明してきた。

Q13「本日の訓練に参加して役立ったと思うことは何か」の設問に対し、参加者の5割以上の方が「河川はん濫に対する防災意識が高まった」、「早めの避難の大切さが理解できた」と回答しており、Q13の回答ではそれぞれ1位と2位になっていることから、地域住民への一定の理解が得られたのではないかと考える。

同じQ13の設問において、「地域住民のつながりが深まった」との回答も23.9%あった。

平成30年7月豪雨では、長行市民センターと長行小学校が長行校区の避難所として開設された。この時、校区で炊出しを実施するなど元々地域住民の結束力の高い校区ではあったが、今回の訓練に参加することで、より地域住民同士のつながりの重要性を再認識することができたのではないかと思慮される。

一方、Q10「どの避難情報が出たら自宅以外の場所へ避難するか」との設問では、「避難指示(緊急)」が44.6%と、2位の「避難勧告」(22.1%)の2倍以上の差をつけて1位となっている。

河川はん濫における「避難指示(緊急)」は、河川の水位が「はん濫危険水位」に到達、もしくはその可能性が高いことを意味しており、未だ氾濫していないにしても、道路の冠水や、内水はん濫などにより、避難がすでに困難な状況になっている可能性がある。

避難情報だけに頼らず、様々な手段で情報を取得し、早めに避難することの重要性を継続して啓発していく必要がある。

Q10及びQ11の設問で、避難情報発令に対して「避難しない」又は「避難したことがない」と回答し、Q12でその理由を問う設問の回答では、「災害の危険性を感じたことがないから」との回答が56.9%と、他の回答より圧倒的に多かった。

紫川流域以外の居住者は、今まで自分の居住地域まで河川はん濫の危険が及んでいないため、この回答が多かったと考えられる。

しかし、想定はあくまで想定であり、今回発表された浸水想定区域を上回る洪水の発生についても完全に否定はできない。

雨の降り方と、河川の水位情報を意識し、危険を感じたら直ちに避難できるよう準備しておくことが大切である。

第7 訓練総括と今後の課題

同じQ12の設問における回答では、「避難場所までの距離が遠いから」と、「どこに避難したら良いのかわからないから」という回答が、それぞれ数%ずつあった。

この回答は高齢者の割合が高く、回答者の居住地域が避難する必要がある地域であり、避難する意思があるにも関わらずこの回答のような理由により避難行動に結びついていないのならば、市、地域が一丸となり、要配慮者の避難支援といった共助の精神を浸透させていく必要がある。



今回の総合防災訓練は、「第1 訓練背景及び趣旨」で記述したとおり、近年の災害状況と過去の災害、及び洪水浸水想定区域図の発表を受け、長行小学校を会場として実施した。

訓練実施時には、長行小学校の外壁工事の関係でグラウンドの一部が工事施工業者の事務所や駐車場として使用されており、市民参観テントを十分な個数設置できなかったため、テントに入りきれなかった市民から、アンケートを通じて指摘を受けた。

市民や防災関係機関の円滑な防災活動の実施を主眼とする総合防災訓練の会場選定要件として、今後注意すべき課題である。

会場規模の問題を補うため、「見て・触って・体験して」を訓練テーマに掲げ、グラウンドでのイベントにはトラック荷台に搭載された大型モニター（右写真）を取り入れ、映像を多用して訓練を視覚的に演出するとともに、すべての訓練ブースを体感・体験できる内容で統一し、来場者がより身近に防災について学ぶことができることを意識して計画した。



大型モニター

Q8「どの訓練内容がよかったか」の設問の回答では、「救助救出訓練」が71.2%と高評価を得た。

訓練場所と市民参観席が近く、普段近くでは見られない防災関係機関の救助救出活動を間近で見ることができ、臨場感という面で高評価を得ることができたのではないかと思う。

しかし、「見せる」訓練を意識して救助救出訓練の内容を構成したため、実施した防災関係機関の連携面で、実際の活動とは一部そぐわない部分もあったことは反省点として挙げられる。

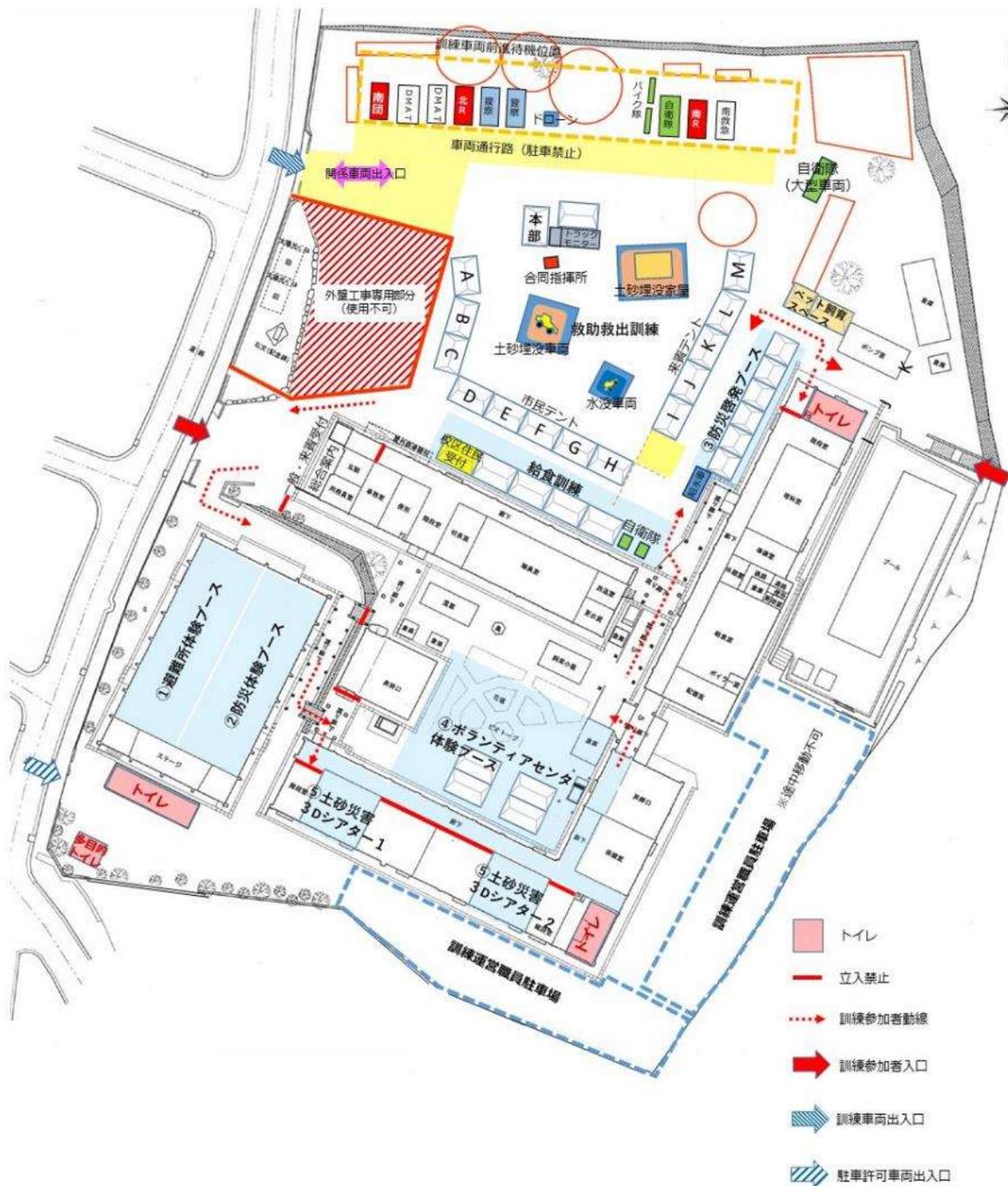
訓練全般の満足度としては、Q9の設問「訓練全般の満足度」についての回答が、「大変満足」（47.8%）と「まあ満足」（43.0%）を合わせて肯定意見が9割以上という高い評価を得ることができた。

さらに、Q14での「本日の訓練に関する意見」として、「防災意識が高まった」、「良い経験ができた」、「学習できた」などの肯定的評価が多かったことを踏まえ、今回の総合防災訓練に対する総体的な評価としては、当初の目的を十分達成し、一定の評価を得たのではないかと考える。

今後の総合防災訓練のあり方としては、関係機関との連携の部分に主眼を置くなど、訓練内容や手順などを工夫しながら、実行性と実施効果の高い訓練を計画し、北九州市全体の防災対応力向上を図っていくことが重要である。

第8 参考資料

訓練会場 全体レイアウト



訓練広報ちらし

主 催 北九州市

平成30年度
北九州市
総合防災訓練

早めの避難が あなたの命を守ります

見て・触って・体験して **11月4日**
市民体験型防災訓練 9:20~13:30

※雨天中止

※「住民避難訓練」は8:15から開始

会場 長行小学校 北九州市小倉南区長行東三丁目8-1

平成29年7月九州北部豪雨や平成30年7月豪雨など、記録的な大雨により全国各地で大規模被害が発生しています。今年4月には、福岡県から豊川・東海川及び柳川川の「想定最大規模降雨」による洪水想定区域が公表されました。このように豪雨から、今年の北九州市総合防災訓練は、大雨による河川はん濫を想定した訓練となっております。河川はん濫への対応は早めの避難が重要です。この機会に、見て、触って、体験しながら、防災について学んでみましょう！

防災情報北九州 スマホ版ができました！

防災訓練の詳しい内容は「防災情報北九州」の「その日の情報」をご確認ください！

防災情報北九州

(表)

テーマは「見て・触って・体験して」

今年の北九州市総合防災訓練は「見て・触って・体験して」をテーマに、災害への対応や、避難所での生活などを、来場者が体験しながら学ぶことができる「市民体験型」の防災訓練です。

訓練スケジュール

※詳細情報は変更することがあります

8:15 第1訓練 住民避難訓練
大雨の想定が、実際に発生した状況により、小学校・避難所が指定されることになり、避難に必要な準備や避難行動を体験します。
(長行小学校を会場)

9:20 開会式 (一般参観者はここから)
北九州市の防災意識を高め、市民参加の防災訓練の意義を説明いたします。

9:30 第2訓練 救助救出訓練
河川はん濫によって発生が想定された危険な状況で、救助、救助、救助、救助 (災害救助隊チーム) 及び救助隊が、救助活動訓練を実施します。

9:30 第3訓練 給食訓練 (放出し)
北九州市の備蓄している缶詰を食料として、自衛隊に協力して食料を供給する訓練を行います。

10:15 第4訓練 体験型防災訓練
災害から、避難所での生活を体験して学ぶことができます。避難所生活体験訓練を実施します。

10:15 第5訓練 避難所生活体験訓練
避難所に避難した際の生活体験を想定した訓練です。
(長行小学校避難所生活体験訓練)

13:15 閉会式
訓練を終了したことを報告いたします。

13:30 放出し給食
第3訓練「給食訓練」で作ったお弁当 (長行小学校) をお弁当でいただきます。

一般参観者・来賓駐車場
長古中央公園

会場 (長行小学校) には駐車場はありません。

体感・体験ブース紹介

防災に関する様々なブースを体感・体験できます

- 避難所生活体験ブース**
ダンボールベッドや防災トイレなどに実際に寝たり、着たりできるブース。
- 防災研究ブース**
災害対応やライフラインの復旧などに役立つ情報による、防災ブース。
- 土砂災害3Dシミュレーター**
土砂災害への対応を3D (立体映像) で学べるブース。
- ボランティアセンター体験ブース**
災害ボランティアセンターの「受付」や「マッペン」など、通常の流れを体験できるブース。
- 防災体験ブース**
車が水没した際の救出方法をVR (バーチャルリアリティ) で体験したり、災害時に役立つ防災グッズを、北九州市立大学の学生と一緒に製作するブース。

会場についてまず受付を

- 「住民避難訓練」に参加された方
会場では避難所受付を体験しますので、受付が済みの方から「市民体験型」へお入りください。
- 「一般参観」または「来賓」の方
小学校正面玄関の「総合受付」で受付を行い、一般参観者は「市民体験型」へ、来賓の方は「来賓受付」へお入りください。

会場へはシャトルバスで!

会場には駐車場はありません。
車でお越しの方は、一般参観者・来賓駐車場(長古中央公園)に駐車後、シャトルバスが待機しておきます。

先着700人に参加記念品進呈

避難所への一時の避難に必要なのが用意されたオリジナルバッグを進呈します。

問い合わせ先 北九州市危機管理室 ☎ 093-582-2110

(裏)

訓練参加記念品

~短い期間の避難のための「非常持ち出しバッグ」~

Ittoki 避難所 Bag

持ちやすい トートバッグ

便利な チャック付き

最低限のものを 8種類に分類

いざ避難するとなった場合に、短期間をやり過ごすための最低限の持ち出し品を準備するための「非常持ち出しバッグ」

